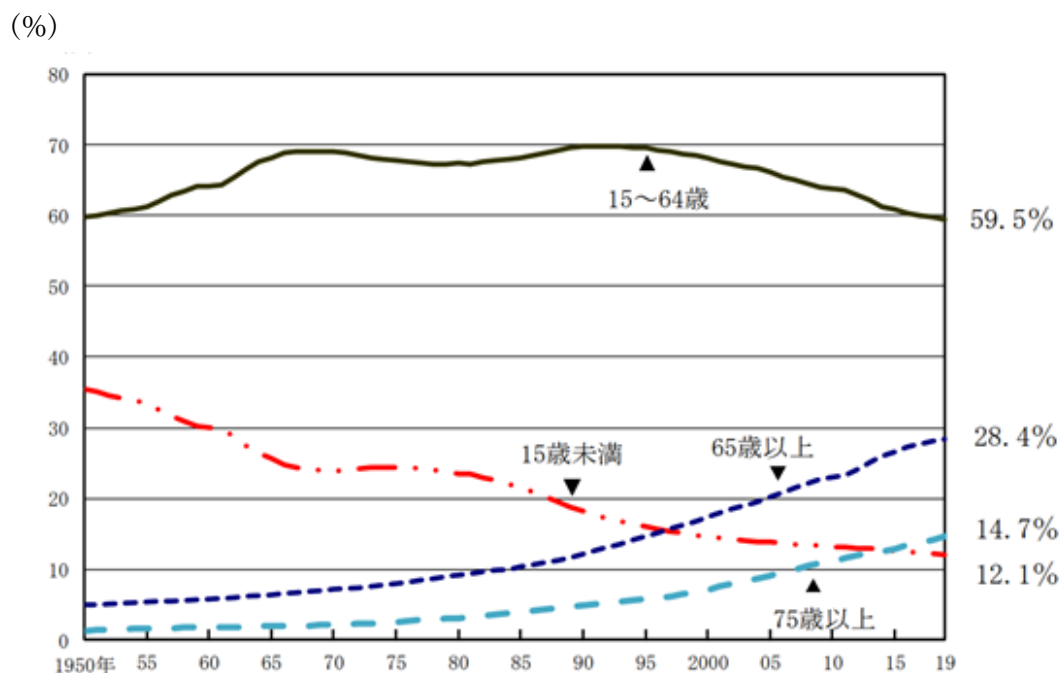


図1は総務省の公表による「年齢区分別人口の割合の推移(1950年～2019年)」を示したものである。日本の2019年の総人口において、パーセンテージは、15歳未満が12.1%、15歳以上～64歳以下が59.5%、65歳以上が28.4%(そのうち75歳以上を占める割合が14.7%)である。

総人口に占める割合の推移をみると、15歳未満人口は、1975年以降一貫して低下を続け、2019年は過去最低となっている。15～64歳人口は、1982年以降上昇していたが、1992年にピークとなり、その後は低下を続け、2019年は過去最低となった。

一方、65歳以上人口は、1950年以降一貫して上昇が続いており、2019年には過去最高となった。なお、75歳以上人口も1950年以降上昇を続け、2019年は過去最高となった。

図1 年齢区分別人口の割合の推移（1950年～2019年）



出典：総務省「年齢区分別人口の割合の推移(1950年～2019年)」

このような結果から、それぞれの人口推移の変化によって、現代社会にどのような影響が発生していると考えられますか。また、今後起こりうる課題および対策について、あなたの考えを600～800字で述べて下さい。